

京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

京都の文化世界遺産シリーズ その12



西本願寺 (にしほんがんじ)

宗祖・親鸞聖人の入滅後、聖人の末娘・覚信尼が、関東の門弟の協力を得て、1272年（文永9）、大谷の西（現在の京都市東山区知恩院付近）に廟堂を創建したのが本願寺の発祥とされています。1321年（元亨1）頃、第3代覚如が専修寺と号し、さらに本願寺と改称しました。室町時代中期になると本願寺は急速に発展し、その教えを広めていきます。しかしその興隆は、各政治・宗教勢力との対立へと発展し、門徒たちはついに武装して各地で一揆を起こすようになりました。その後戦乱の中、近江や越前、河内等の各地に寺基を移転しながら力を保ちますが、1570年（元亀1）から11年にわたる織田信長との石山戦争により、本願寺の勢力は衰退していきました。

1591年（天正19）、豊臣秀吉より寺地の寄進を受け、本願寺の寺基は天満から現在の場所に移転します。廟堂は江戸時代初頭、東山五条坂西大谷に移り現在の「大谷本廟」となりました。依然として社会影響力を持つ本願寺を恐れた徳川家康によって、1602年（慶長7）本願寺の末寺・門徒は二分され、その際、第11代顕如の子教如が本願寺の東に寺領を与えられ、開山した寺を東本願寺と呼んだ為、それまでの本願寺は西本願寺と通称されるようになりました。

当時の建物の配置と構造は典型的な真宗建築で、本堂よりも御影堂の方が大きく、また堂内は自由に参拝できるように造られています。御影堂の後ろには1632年（寛永9）ごろ建築された書院があり、建築や彫刻に粋を凝らし豪華な襖絵で飾られています。飛雲閣は豊臣秀吉の建てた聚楽弟の遺構といわれ桃山時代様式の邸宅建築としての特色を有しています。このほか西本願寺には、唐門、北能舞台の建物や親鸞聖人御影など多数の文化財を蔵しています。



GETALS（ゲタル）とは、下駄とサンダルを合わせた造語です。日本の伝統としての下駄と斬新な鼻緒

を融合させたまったく新しい下駄を開発しました。この GETALS は、意匠登録をしています。また、商標登録の出願をしています。

GETALS のページは、<http://www.kimono-saganoya.com/getals/>です。

